

## あなたは「化学物質過敏症」をご存知ですか？

化学物質過敏症（以下MCS）とは、建材をはじめ家庭用品や化粧品などに含まれる化学物質に過敏に反応して現れる様々な症状のことをいいます。一度多量の化学物質にさらされMCSを発症すると、それ以降は、ほんのわずかな量の物質にも過敏に反応するようになり、化学物質に溢れる現在では通常の生活を送ることさえ難しくなってしまう。その症状とされるものは様々で、皮膚炎、喘息、不整脈、下痢、異常発汗、記憶困難、けいれん、発熱などがあります。

MCSの診断には、日本で始めて専門科が設置された東京都の北里研究所病院をはじめとして全国に十数件の専門科が設置されており、MCSとして診断・治療法の検討が行われてきました。そうした中で、厚生労働省は2009

年10月カルテに記載するための病名リストにMCSを登録しました。その一方で、MCSとされる症状については発症のメカニズム等については未解明な部分が多くあり、MCSそのものに議論の余地が残っています。しかしながら、実際にMCSで苦しんでいる方は全国で100万人程いると言われています。

実際に上越市でもMCSを発症し、学校上や仕事をする上で様々な課題が生じました。そうした経緯の中で、私たちは2005年に上越市立の全小学生、2010年に全小中学生に対して、「MCSに関連した症状（MCS様症状）」についてアンケート調査を行いました。その節は保護者の皆様や先生方に多大なご協力を頂き感謝しております。さて、調査結果から、MCS様症状を示す割合は、学年が進むに伴い増加傾向にあったこと、2005年の小学生に比べて2010年の小学生の方が増加していたこと、

が明らかとなりました。

私たちの日々の暮らしの中には、気づかないうちにも身体に影響力の強い物質にさらされている場合があります。そのような現状から自己の身体を守る知識を身に付け・実行するとともに、化学物質に反応する人々がいることを視野におき、化学物質配合の品物を使う際には様々な配慮をしていきたいものです。特に、多くの化学物質が配合されている香水や整髪料は、MCSの方々にとっては凶器のように感じられ、香りを嗅ぐことにより症状が強くなる場合があります。そのため、多くの人が集まる場では香料の使用は控えるなどの配慮をして頂ければと思います。

新潟県立看護大学

人間環境科学領域

助教 永吉雅人